

川崎マリーンロータリークラブ



2024~25年度 RIテーマ



2024-2025年度 RI会長
ステファニー・アーチック

例会 毎週木曜日12:30
 例会場 煌蘭 グイスビル6 F
 TEL: 044-245-0018
 事務局 〒210-0004 川崎市川崎区大島1-26-13-1F
 TEL: 044-200-9249 FAX: 044-200-9252
 E-mail marin-rc@eagle.ocn.ne.jp



- ★司会 峰 孝之 会員
- ★点鐘 伊藤 恒満 会長
- ★ロータリーソング「それこそロータリー」
指揮者: 中條 藝立 会員 ピアノ: 瀧口 幹子 会員

ゲスト紹介 伊藤恒満 会長



ロータリー米山奨学生
チャウダリウルミラ 様
今年度4月より当クラブが世話クラブとなった。
ネパールご出身で東京都市大学にて環境情報
学研究科に在籍中。



幹事報告 石田 生 幹事

1. 「2025-26年度 期首活動計画書作成のお願い」を
対象の方へ事務局よりメールが配信されている。
計画書作成対象者の方は事務局へ5月12日までに
提出。

*近隣RCからのお知らせ
○ありません

*週報を送ってくださったRC
○川崎北ロータリークラブ
○川崎中原ロータリークラブ

ビジター紹介

○ありません

今後の予定

- 5月 1日 休会
- 8日 休会
- 15日 島田会員による卓話
- 22日 望月会員による卓話

出席報告 森山宏之 会員

会員数	出席率 該当者	出席者	欠席者	ホームクラブ 出席率	メーク アップ	修正 出席率
34	29	24	5	82.76		
(備考)						

会長報告 伊藤恒満 会長

- 3月24日に開催された「2025-26年度地区研修・協議会本
会議」の動画配信が開始され視聴義務者には事務局より
メールが配信されている。
視聴したうえ視聴報告義務があるので未視聴、未報告の
方は4月30日までに視聴、報告をすること。
- 地区より「クラブ正会員の年齢構成アンケート」の依頼が
あり下記結果を報告した。
当クラブは会員数34名
 - ・80歳以上 5名
 - ・70~79歳 7名
 - ・60~69歳 12名
 - ・50~59歳 7名
 - ・40~49歳 2名
 - ・35~39歳 1名
 - ・34歳以下 0名

委員会報告

- 米山奨学生歓送迎会のお知らせ
3月にて米山奨学生の2年間を終えたクマイントゥアン
さんの送別会、今年度4月より米山奨学生になられた
チャウダリウルミラさんの歓迎会を下記日程にて開催。
 - ・日時:2025年5月27日(火) 18時30分~
 - ・場所:シーハーズ
 - ・会費:6,000円
- 1泊移動例会のお知らせ
事務局より配信されているメール及びラインより出欠の
回答をお願いします。
 - ・日時:2025年6月12日(木)~13日(金)
 - ・場所:箱根湯本 天成園
 - ・会費:25,000円
 - ・点鐘:18:00

◆野口会員

峰さん、財団の話がんばって下さい。

◆増田(敏)会員

①米山奨学生チャルダリウルミラさん、クラブの皆さんと仲よくしてください。

②トウアン君に記念品と1回目の奨学金を渡しました。

皆様のご協力に感謝申し上げます。

◆小山会員

峰会員、楽しい卓話をお願い致します。

石田幹事、ナイスサードでした①

◆鈴木会員

峰さん、頑張ってください！！

◆増田(洋)会員(オンライン)

盛岡出張のため欠席します。

◆山崎会員

4月の例会も最後になってしまいました。残り2ヶ月間三役の皆様頑張ってください。

峰さん、本日の卓話宜しくお祈りします。

(寝ないように頑張ります)

ウルミラさん、ようこそマリンロータリークラブへ！！

これから1年間よろしくお祈りします。

◆松下会員

峰さん本日の卓話楽しみにしています。

よろしくお祈りします。

◆三役(伊藤会長 林副会長 石田幹事)

峰さん、本日はよろしくお祈りします。

本日のニコニコ

12,000円

累計金額

525,000円

本日の卓話



会員卓話

峰 孝之 会員

『ロータリー財団とは』

入会年月：2023年1月

ロータリー財団は私たちの地域社会から世界的規模の地域といった大きな活動域の中で国際ロータリーが目指す世界平和への礎となる社会貢献活動への支援を行う世界有数の慈善団体。簡単に言えば国際ロータリーは例会や活動を通して奉仕の理念に基づいた人づくりを行い、ロータリー財団はそこで培った奉仕の理念の実践を社会貢献活動という形に変えて行っている。

設立は今から107年前の1917年時のRI会長であるアーチC.クランプが世界でよい事をしようという理念から基金の提案をした。

最初の寄付額は26ドル50セント。現在の価値でいうとおおよそ米ドルで662.5ドル。現在の総資産は13億ドルを超える規模にまで成長をした。よく国際ロータリーは非営利法人なのになぜ、財団を作る必要があるのかという疑問を聞くことがある。寄付金を受け取って支出するだけであるなら、非営利法人としての国際ロータリーは法人運用益の免税を受けられるので問題はないが、寄付をする側に関しては優遇措置を受けられない状態となっていた。

そこで寄付をする側に対しての優遇措置(所得控除)が受けられ新たな非営利法人の設立が求められた結果、ロータリー財団が設立されることとなった。現在ではその国の通貨で寄付を行うことでその国内において税の優遇措置を受けられるようになり、そのための受け皿が公益財団法人日本ロータリー財団となる。このような組織が日本を含めて9か国に存在している。

ロータリー財団は歴史と実績をもつ巨大な組織となったが、多様性・柔軟性を持つ組織でもある。ロータリー財団を語る上で最もふさわしいのが、不易流行。変わらぬ理念にもとづいてその時代にあった、その時代に要求される手法に変えて奉仕を実践していく柔軟さは決して過去の形にとらわれることはない。近年での災害支援やCovid19への支援、紛争地周辺地域への人道的支援などに対するスピード感を持った対応は記憶に新しい。

ロータリー財団の最大の特徴とは何か、それは活用される資金のすべてが支援して下さる皆さんからの寄付で成り立っているという事。ロータリーの5大奉仕事業は皆様からの会費(人頭分担金)が原資となり、その活動が進められていくが、ロータリー財団は寄付が少なくなればおのずからその活動のふり幅は縮小せざるを得ない事になる。

ロータリー財団関連の委員会は細分化されている。ロータリー財団に求められるリクエストは多岐にわたる。そのどれもが専門性を求められ、かつ厳格な管理がなされなければならない。その為にそれぞれの部門に対応できるスキルを持った多くの委員会が必要となってくる。それらに加え管理・運営に関する委員会が必要となる。なぜならロータリー財団のプログラムの原資のすべてが、皆様からの寄付で賄われているからである。何重ものチェックと監査を行う事で公平、公正さを保つていかなければならない。

そのため補助金を受けるための資格確認や必要書類のチェックなど様々な制約や手順を経なければならない。皆さんからの寄付はロータリー財団の中でどのように使用されているのか？

ポリオ根絶！

まず年間予算の45.6%を使用する国際ロータリーの最優先事項であるポリオプラスが筆頭に挙げられる。なぜロータリーはポリオ根絶に注力し、続けていかなければならないのか？それはポリオ根絶を最初に世界に訴えたのが、国際ロータリーであり、この三十有余年で99%まで激減させた実績があるので根絶までの頂上がおぼろげながらも見えてきているのも事実ではないか。

国際ロータリーは1985年からポリオ根絶のための活動を開始し、現在では常在国はアフガニスタン・パキスタンの2か国にまで減った。それでも紛争や様々な理由からワクチン投与が進まずに根絶までには至っていない。最近、根絶されたはずのNYやロンドン、そしてガザ地区においてポリオウイルスが確認されたことはポリオが世界のどこかに存在する限りどの国においても脅威であることを改めて思い知らされるものとなった。それは日本でも再び、感染が起ころう可能性があるということである。

ポリオへの資金は全てワクチン投与に使用されているように思われがちだが、現在はサーベイランス(事前予測調査)にも力を入れ、再発生の予想される地域などを予測調査し最小限に抑え込むことにも注力している。ポリオの野生株は2024年10月現在、パキスタン、アフガニスタンにおいて54例が報告された。また、ワクチン由来による伝播型ウイルスのアウトブレイクが散見され新たな問題になっていることも避けられない事実である。現在、投与するワクチンは従来よりも伝播のリスクの低下したワクチンが使用されているが、集団予防の見地から接種率が上がらなければ効果は薄くなってしまふ危険性がある。より集中した根絶運動が求められている。

ポリオの状況は日々、変化をしている。詳細はweb上のEndPolio。

グローバル補助金

このプログラムはロータリーの提唱する重点分野に合致したプロジェクトについて支援を行うもの。援助を支援する援助側と援助を受ける実施側の双方が申請を行い、30,000ドル以上の規模で行う他地区合同プロジェクト。当地区での直近の事業はモンゴル国での新生児蘇生研修プロジェクトの実施があげられる。援助側は横浜金沢八景RC、宜野湾RC、そして実施側がモンゴル国トゥールRCで実施され、現在はモンゴル国内において自主継続がなされている。この補助金ではプロジェクト実施後にロータリー財団に対して明確な効果の報告が求められる。

地区補助金

これは一番皆さんが身近に感じる補助金プログラムではないか。上限を3,000ドルとして各クラブが地域社会における社会奉仕事業に利用する補助金となる。同一内容プログラムは3年以上、続けることは出来ない。これは援助を受ける側が自立をするための方針でもある。補助金は単なる支援ではなく、支援を通して自立を促すきっかけとなる。今年度は当地区の補助金プロジェクト数は27件。

※当クラブでは今年度「子ども食堂等への食糧支援プロジェクト」として精米950kgを寄付した。

奨学金事業

～学問、芸術の研究や学業研鑽を海外で目指す学生を支援～

ロータリーの重点分野に特化した専門分野を専攻するグローバル奨学生と様々な分野を専攻する地区補助金奨学生に分けられている。ロータリー財団の奨学生プログラムは1947年に創設されて以降、**国連難民高等弁務官の緒方貞子氏**や**宇宙飛行士の山崎直子氏**など世界で活躍する多くの人材を輩出した。事業開始以来、当地区の奨学金学友は380名を超えた。

今年度も第3回目となる学友たち主催のアカデミック講座が開催された。これは留学を目指す次世代の一般学生に対して自らが経験した話や研究内容などを聞いて頂くミニ市民大学のような取り組み。その他に留学ラジオなど新たな取り組みを始めている。学友自らが自主的に行動を起こし、活動を始めた意義は大変、大きなものである。まさに皆さんからの浄財が成果として地域社会に還元されてきた始まりと言える。

また現在、注目をされているのが、2002年度に創設されたロータリー平和センタープログラム。紛争解決のための国際的リーダーを育てることを目的に毎年、世界中で100名の人材が選出されている。世界7か国、8大学に設置されたロータリー平和センターで研究を行っている。開設以来、日本人学生は39名と少ないのが現状。

世界を取り巻く不安定な状況の中で、平和への活動に取り組んでも虚しさを感じざるを得ないこともあるが、財団活動の歩みを経験することこそが解決に向かうゆるぎない一歩であることを確信した。現在、留学中の深谷春奈さんは横浜鶴見北RCがスポンサーとなり、インターアクト、YE(青少年交換)、その後、横浜ローターアクトクラブを経て横浜都筑RCが、スポンサーとなって平和フェローとしてデューク大学大学院就学中という当地区の逸材。

これらロータリー財団の全てのプログラムの原資が皆さんからの寄付によって支えられている。

ロータリー財団への寄付は大別すると年次寄付基金と恒久基金に分けられる。

恒久基金は寄付の元金は使わずに投資収益のみをプログラムの上乗せに充てられるもの。

年次基金は寄付をしたDDFと呼ばれる地区の財団活動資金とWFと呼ばれる国際財団活動資金に割り振られそれぞれのプログラムに使われる。DDFは地区のロータリー財団の財布、WFは世界共通のロータリー財団の財布と考える。

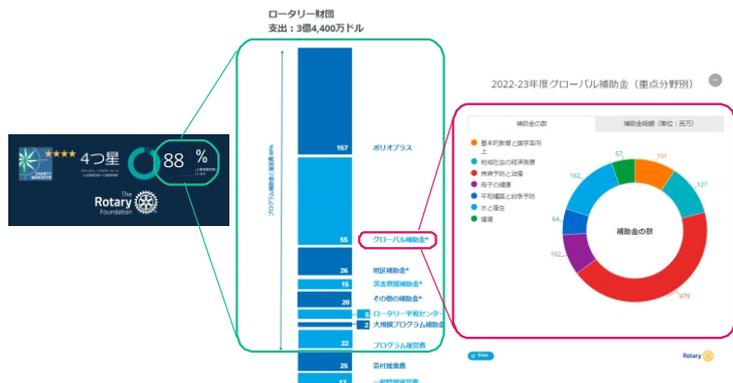
それぞれの寄付者には寄付額に応じて**認証が授与される。**

恒久基金はベネファクターただしこちらは初回のみ認証で2回目以降はない。年次基金はポール・ハリス・フェローから始まりレベルが上がるにつれ他の認証にレベルアップしていく。

皆さんからの貴重な寄付が世界中でどのようなプログラムにあてられているのか。

図の通り総予算の約88%が奉仕プログラムに費やされ、残り11%で一般管理運営と寄付推進事業が賄われている。最も多いのがポリオ、そしてグローバル補助金、地区補助金。

その運営の公正さから慈善団体格付け機関チャリティーナビゲーターからは16年連続で最高の4つ星評価を受けている。このようにガラス張りとなっているロータリー財団の資金は運用・使用についての報告が毎年、MYROTARYにて年次報告として掲載されている。



当地区内での寄付の流れ

年次基金に寄付を150ドルしたとする。現在、年次基金への寄付は全額をWF(国際財団活動資金)に寄付する方法と、半分をWF、残りを当地区の財団活動資金DDFに振り分けるシェアという方法に分かれる。ここではWFとDDFへのシェアをした場合とすると集められ資金は3年間の投資を行い、その運用益の一部はWFとDDFに還元されていく。ここでは複雑になるので還元がないものとする、150ドルよりまず、運営費5%の7.5ドルが差し引かれ残りの142.5ドルが、地区財団活動資金と世界財団活動資金に71.25ドルずつに折半される。その後、世界財団活動資金への71.25ドルはWFにプールされ、地区財団活動資金に配分された71.25ドルは地区補助金とグローバル補助金に半分ずつの35.625ドルとして分配される。またグローバル補助金に振り分けられた35.625ドルはプロジェクト実行時にはその80%(28.5ドル)が世界財団活動資金より上乗せされ合計で64.125ドルの使用が可能となる。このような形で寄付はそれぞれのプログラムへ支援として分割されていく。またポリオ基金への一人当たり30ドルについては、地区独自のポリオへの寄付やロータリーカードの使用による寄付など、様々なポリオへの寄付が一本化されてポリオ根絶運動に関する費用に充てられている。

寄付を頂く以上、当然のことではあるが、同時にその資金を利用する側には応分の責任と義務を負う事が求められる。これらの管理を資金監査委員会が担うのだが、クラブは財団の補助金を使用する場合は**Memorandum of Understanding**という覚書、**通称MOU**を地区と締結する。地区は同様にロータリー財団本体とMOUを交わす。この相互の書式締結はロータリアンの浄財を使用する義務と責任を全うする覚悟を表している。そこに一切の不正や緩みは許されない。プロジェクトが終了すればその終了報告について管理委員会による審査が行われ、最終的にはロータリー財団とは無関係の構成員によるロータリー財団監査委員会が最後の監査を行う。こうしてようやく1つのプロジェクトが完結する。皆さんからの貴重な資金を管理・運営する責任をロータリー財団各委員会はしっかりと負っていることをご理解頂きたく思う。

皆さんにとって寄付とは？ 施し？ それとも託し？ ロータリー財団への寄付とは託すこと・すなわち託しとなる。施しは慈しみの心や憐みから物質的な援助を行うが、託しにはその気持ちに加えて自分自身が行動できなくても、心は共にあることを、力になりたいという心を物質にのせて託すことで共感すること・・・信託が含まれている。奉仕の機会が身近になくても、自分が共感する事業に間接的であっても手を差し伸べる事が出来ればというように考えて頂けたらと思う。

そしてロータリー財団の資金を使用するという事は使用する側も自立を目指した成長をして頂かなければならない。また手を差し伸べる我々ロータリアンもそのことを強く自覚しなければならない。

互いがそのことを理解しなければロータリーはただの財布になってしまう。事業を主導するのはロータリーではなく、支援を求める人たち自身。ロータリーの供与するきっかけを通して支援を求める人たちが自立をし、どう継続していくかが最も大切なことなのではないか。そして支援が必要でなくなればロータリーは新たな支援の輪を広げていける。陳腐な言い方かもしれないが、それがロータリーのロータリー財団のSDGSだと考える。

ロータリー活動もロータリー財団活動にも最大の脅威がある。

それは無関心。無関心は無感動を生み、いずれは無気力につながる。無気力は、いずれはクラブの弱体化に確実につながる。

諸悪の根源である無関心の最大の武器は感染力となる。その特効薬は何か知ることとして共感すること。そのワクチンは皆さんの目の前に、手の届くところに常にある。各クラブにお配りしているロータリー財団ハンドブック、Web上ではMYROTARYや財団室ニュース、そしてロータリーの友。

寄付は支援をする人を幸せにする。そして支援をした人も幸せになる。皆さんのロータリーライフがより豊かになるように、是非、ロータリー財団への関心を高めてほしい。

参照：国際ロータリー2590地区
財団委員長 樋口明様 作成資料